

ハウレンソウケナガコナダニの増殖源となる藻類の抑制方法

○本田善之・岩本哲弥
山口県農林総合技術センター

中山間地のハウレンソウ施設栽培では、ハウレンソウケナガコナダニ（以下コナダニと略）が増殖し、安定生産に支障をきたしている。演者らは、コナダニが土壌表面に生える藻類を増殖源とすること、播種前の土壌に発生した藻類を鋤込むと多発生するリスクが高いことを明らかにした。そこで、（１）播種前に藻類を発生させない方法、（２）播種後の藻類発生を抑制する方法、（３）播種前に発生した藻類の処理方法について検討した。なお、本試験で発生した藻類はすべてプロトシフォン属であった。

試験（１）2015年10月に周南市のハウレンソウ農家のハウス（5m×30m、品種ミラージュ）で、1区4㎡3連制で実施した。播種前に防草シートで1週間ほど耕作面の土壌を覆い光遮断した。本処理は藻類の発生を抑え、収穫期のコナダニによる被害度は無処理区の34.4に対し10.9と抑制効果が認められた。

試験（２）試験（１）の処理に加え、藻類の発生しやすいハウスのサイドから内側50cmの土壌を子葉期以降に防草シートで被覆した。本処理により収穫期の被害度は5.2となり、（１）の処理より被害を抑制した。

試験（３）播種前に藻類が発生している場合に対処する方法を検討した。山口市のセンター内で2016年5～6月に、直径9cmの素焼き鉢に土を入れ、藻類を乗せて灌水した後に以下の処理を行った。処理は①200倍の酢酸を100L/10a散布区、②防草シートを1週間被覆区、③バーナーで焼却区、④100倍のカーバムナトリウム塩液剤（キルパー液剤）を60L/10a散布区、⑤無処理区の5区で各6反復とした。処理1週間後の藻類をコナダニのいない乾燥土壌と1:1（容積比）で混和し、プラスチックケース（直径6cm高さ3cm容量80mL）に入れコナダニを10頭放虫し、湿度95%RH以上20℃で2週間静置後、ツルグレン装置を用いてコナダニ数を計数した。土壌80mL当りのコナダニ数は、酢酸散布区で0.8頭、防草シート区で0.8頭、バーナー焼却区で1.3頭、カーバムナトリウム塩液剤区で8.2頭であり、いずれも無処理区の228.2頭に比べ密度抑制効果が認められた。ただし、処理前の灌水を省いた再試験では、防草シート1週間被覆区とバーナー焼却区では2週間後のコナダニ密度が一部で高密度となり効果が劣った。

これらのことから、播種前に藻類を発生させないためには防草シートの被覆が、播種後の藻類発生を抑制するにはハウスサイドの防草シート被覆が、播種前に発生した藻類の抑制には酢酸やカーバムナトリウム塩液剤の散布が有効と考えられた。今後はこれらの技術を組み合わせた実証試験を実施する予定である。

The method of suppressing the occurrence of algae as a growth source of *Tyrophagus similis* Volgin (Acari : Acaridae) .

Yoshiyuki Honda・Tetsuhiro Iwamoto

Yamaguchi Prefectural Agriculture & Forestry General Technology Center